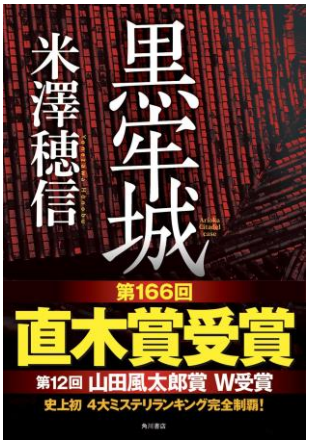


黒牢城　米澤 穂信　（著）

祝 第166回直木賞受賞！

本能寺の変より四年前、天正六年の冬。織田信長に叛旗を翻して有岡城に立て籠った荒木村重は、城内で起きる難事件に翻弄される。動揺する人心を落ち着かせるため、村重は、土牢の囚人にして織田方の智将・黒田官兵衛に謎を解くよう求めた。事件の裏には何が潜むのか。戦と推理の果てに村重は、官兵衛は何を企む。デビュー20周年の集大成。『満願』『王とサーカス』の著者が辿り着いた、ミステリの精髄と歴史小説の王道。

塞王の楯　今村 翔吾　（著）

【第166回直木賞受賞作】

どんな攻めをも、はね返す石垣。

どんな守りをも、打ち破る鉄砲。

「最強の楯」と「至高の矛」の対決を描く、究極の戦国小説！

越前・一乗谷城は織田信長に落とされた。

幼き匡介（きょうすけ）はその際に父母と妹を喪い、逃げる途中に石垣職人の源斎（げんさい）に助けられる。

匡介は源斎を頭目とする穴太衆（あのうしゅう）（=石垣作りの職人集団）の飛田屋で育てられ、やがて後継者と目されるようになる。匡介は絶対に破られない「最強の楯」である石垣を作れば、戦を無くせると考えていた。両親や妹のような人をこれ以上出したくないと願い、石積みの技を磨き続ける。

秀吉が病死し、戦乱の気配が近づく中、匡介は京極高次（きょうごくたかつぐ）より琵琶湖畔にある大津城の石垣の改修を任される。

一方、そこを攻めようとしている毛利元康は、国友衆（くにともしゅう）に鉄砲作りを依頼した。「至高の矛」たる鉄砲を作って皆に恐怖を植え付けることこそ、戦の抑止力になると信じる国友衆の次期頭目・彦九郎（げんくろう）は、「飛田屋を叩き潰す」と宣言する。

大軍に囲まれ絶体絶命の大津城を舞台に、宿命の対決が幕を開ける――。

ブラックボックス　砂川 文次　（著）

第166回芥川賞受賞作。ずっと遠くに行きたかった。

今も行きたいと思っている。

自分の中の怒りの暴発を、なぜ止められないのだろう。

自衛隊を辞め、いまは自転車メッセンジャーの仕事に就いているサクマは、都内を今日もひた走る。

昼間走る街並みやそこかしこにあるであろう倉庫やオフィス、夜の生活の営み、どれもこれもが明け透けに見えているようで見えない。張りぼての向こう側に広がっているかもしれない実相に触れることはできない。（本書より）

　気鋭の実力派作家、新境地の傑作。

三千円の使いかた　原田 ひ香　（著）

垣谷美雨さん 絶賛！
「この本は死ぬまで本棚の片隅に置いておき、自分を見失うたびに再び手に取る。そういった価値のある本です」
就職して理想の一人暮らしをはじめた美帆（貯金三十万）。結婚前は証券会社勤務だった姉・真帆（貯金六百万）。習い事に熱心で向上心の高い母・智子（貯金百万弱）。そして一千万円を貯めた祖母・琴子。御厨家の女性たちは人生の節目とピンチを乗り越えるため、お金をどう貯めて、どう使うのか？
知識が深まり、絶対「元」もとれちゃう「節約」家族小説！

10 年かかって地味ごはん。和田明日香　（著）

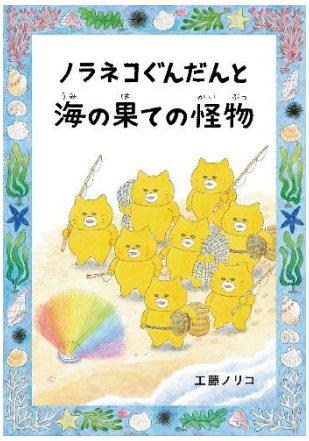
和田明日香さんが毎日作っている食事を公開！ 友達に教えるように話し言葉で書いたレシピは、わかりやすくて画期的！
料理歴ゼロで、結婚してから毎日の食事作りを始め、今では 5 人家族の晩ごはんを、平日は、お米が炊けるまでの 36 分の間に作るという和田明日香さん。
迷いなく美味しく作れるようになるまでの長い長い道のりを思い出し、ゼロからのスタートだったからこそ伝えられるコツがあると思ったという和田さんの料理を「遊び来た友達に話す感覚で書いた」わかりやすいレシピと共に紹介。「10 年料理をし続けて、辿り着いたのは、名もなき地味なおかずばかり。でも、これがわたしの料理で、これからも作り続けていく、人生の一部のようなもの。ちょっと大げさですが、そういう気持ちで届けるレシピです」。

ぼくのお父さん　矢部 太郎　（著）

ぼくの「お父さん」は絵本作家。ずっと家にいて、一緒に遊び絵を描く。いつでもなんでも、絵に描く。夕飯に出た旬のタケノコを食べずに、絵に描く。そしておかずは冷めていく……。ふつうじゃなくて、ふしぎでちょっと恥ずかしい。ただの変わり者？それとも理想のお父さん？
40 年前の東京・東村山を舞台に、つくし採取、自転車の二人乗り、屋根から眺めた花火、普遍的でノスタルジックな心温まるストーリー。子どもを見守りながら、同じ目線で共に遊ぶ。常識にとらわれず、のびのびと子どもと向き合い、ときに親自身も成長していくエピソードは、いまの子育て世代にこそ届けたい家族のすがたです。

だれもが直面することだけど人には言えない中学生の悩みごと高濱正伸(著)，大塚剛史　(著)

中学生はいろいろと悩む時期だ。そして、悩み、もがき、苦しんでこそ成長する!
人気学習塾で多くの中学生と向き合い、本音でぶつかってきたからこそ書けた、新しい思春期バイブル本、ついに誕生!中学生のキミは、どう考える?
こんな悩みを解決するヒント集



ノラネコぐんだんと海の果ての怪物（コドモエのほん）　工藤 ノリコ　(著)

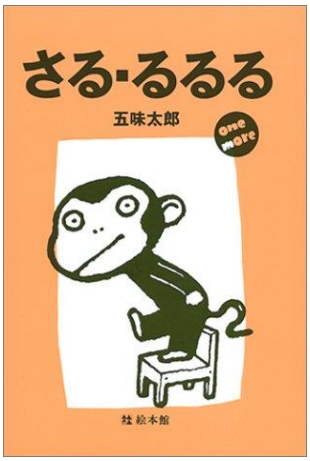
累計 150 万部突破の大人気絵本シリーズ初の<読み物>が登場!
むかし あるところに、ノラネコぐんだんが いました。
ある朝、海辺で虹色に光る貝がらを見つけたノラネコたち。「ニャー、なんてきれい! 」とその貝がらを拾ったことが、あの波乱万丈の冒険の幕開けになるとは……。
作者の工藤ノリコさんが「子どもたちに本の楽しさを伝えたい」と、みんなになじみのあるノラネコぐんだんを主役にして、「絵本」から「読み物」への橋渡しとなる作品を作ってくれました。手に汗握る、はじめての冒険物語!読んであげるなら 4 歳～、自分で読むなら小学校低学年～

ノラネコぐんだんと金色の魔法使い（コドモエのほん）　工藤 ノリコ　(著)

宝物を詰めた袋を背負い、あちこちの名物魚料理を味わいながら世界を旅していたノラネコぐんだん。
あるレストランで、「最近、人喰い鬼が子どもをさらって食べているらしい」という恐ろしい噂を耳にして……!?
「初めての読み物」に最適な、大人気冒険物語シリーズ第 2 弾!

絵本 すみっコぐらし いつでもとなりに よこみぞゆり　(著)

「絵本 すみっコぐらし そらいろのまいにち」の第 2 弾。今度はみにっコたちの 5 つのおはなしです。136 ページぜんぶ描きおろし!



さる・るるる―ONE MORE　五味太郎(著)

「さる・るるる」シリーズ第 2 弾。登場人物がさるだけなので、1 作目より絵とお話はシンプル。

「さる・へる」おなかがへる。「さる・でる」家を出て魚を「つる」、大根を「ほる」材料を「きる」、なべに入れて「にる」調味料を「ふる」。お皿に「もる」、得意げに体を「そる」でも、せっかく作ったお料理をのせたお皿を「わる」。盛り付けに「こる」など子どもがなかなか使わない言葉もユーモラスに表現しているのが楽しい。

10 かいだての まほうつかいの おしろ　の はな はるか （著，イラスト）

10 万部突破『10 かいだての おひめさまの おしろ』につづく、シリーズ第 2 弾！
まほうつかいに憧れている女の子のもとに、お城から魔法のパーティーの招待状がとどきました。
「あなたを まほうの パーティーに ごしょうたいいたします。
りっぱな まほうつかいに なって おしろの いちばん うえまで いらしてください」
クロネコに案内された女の子が、10 階建てのお城に入ると……。
最上階の観音頁には、精緻で美しい描写と華やかな世界が頁いっぱいに広がります。
見てかわいい、選んで楽しい！ こだわりがたっぷりつまった、プレゼントにも最適な絵本。

ふしぎ駄菓子屋 銭天堂 10
廣嶋 玲子 （著），
jyajya（イラスト）

学校では教えてくれない大切なこと 17 夢のかなえ方
旺文社 （編集），
関 和之（イラスト）

ねこねこ日本史(5)
そにしけんじ （著）